

ケーススタディ <群馬県立高崎北高等学校の場合>

群馬県立高崎北高等学校が初めてマレーシア修学旅行を実施したのは2008年のこと。街観光は現地の学生やガイドによる案内ではなく、生徒自身が自力で巡ったという。何気なく通り過ぎる地元の人とのコミュニケーションもまた、現地ならではの体験だ。修学旅行当時のお話を同校の坂本悦郎先生に伺うことができた。

【実施日程】2008年10月11日～15日

【参加人数】240名

Q マレーシアを行き先に選んだ理由を教えてください

A それまで修学旅行の行き先は英語圏ではありませんでしたが、スーパーイングリッシュの指定校になったこともきっかけとなり、英語圏である国を検討する事になりました。2008年はオイルサーチャージにより予算オーバーになってしまいそうなところが多かったのですが費用面の問題をクリアできる場所のひとつにマレーシアがありました。それに、日本航空だけでなくマレーシア航空も利用する事で渡航費を押さえる事が出来ました。往復とも到着時刻は1時間の差もないくらいでしたので、別々に移動しても問題ありませんでした。

マレーシアは英語教育も進んでいますし、多国籍民族だということもあり東南アジアでは目立つ存在です。異文化交流はもちろん、多くの民族が共に暮らしている様子を見る事も意味があると考えました。



Q 異文化交流ではどのような事を？

A チャイニーズ系の女子高であるクエンチャン校を訪問しました。交流会では日本の文化のひとつとして剣道やソーラン節を披露していきます。剣道はお面やその他の武道具日本から用意して行き、デモンストレーションをしました。ソーラン節はなんと修学旅行での発表の為に生徒22名で特設団を作り練習して行きました。こちらもより本格的に見せたかったのではっぴを着て踊りました。

この時、クエンチャン校の生徒たちや先生方に対し当校の校長が英語でスピーチをしたのですが、そうすることによって、英語が交流の手段のひとつとして有効なのだということをも生徒たちに伝える事が出来ました。



Q ほかにどのような経験をされましたか？

A 班に分かれ、地下鉄を使いながら自由に市内を観光しました

地下鉄は乗り方がわかり易いので初めてでも簡単に乗りこなせます。

1 班に 1 台携帯電話を持ってもらい、何かあれば連絡ができる状態にしました。事前に各駅周辺の状態は確認していましたが、ツインタワーなど要所には教員が待機して観光中の通過点としていましたので、危険な事もなく無事に観光できていましたよ。

街中での会話は、英語と現地言葉が半分半分だったとの事です。

苦戦したようですが、勉強というのではなく、自分がプライベートで英語を駆使しているように感じられたことがとても面白かったそうです。

それからピューター工場やバティック工房で体験学習をしました。自由行動以外は基本的にバスで移動したのですが、交通の都合上、一度に何台ものバスで行くことは避けるのが良いということでした。必ずしもクラス単位で動こうと考えるのではなく、移動するに良い人数に分け時間差を設ける事がスムーズに移動するコツです。



Q 準備学習について教えてください

A クラス内でいくつかグループをつくり、調査対象を分担しました。そして全 6 クラス分の調査結果を B5 のバインダーにまとめ、1 つのファイルノートを作成しました。

そのノートに旅行中の調査結果や感想、たとえば調べて行った事と事実がそぐわない事があれば書き込みまして帰国後には各自写真をはったり、思い出を書き込んだり、事後学習としても活用しています。また完成したものは表彰のたいしょうとしており優秀作品の発表もしました。ファイルノートは貸出できるように保管しており後輩に伝えていくものとして残しています。

Q 滞在中のエピソードなどありましたら教えてください

A 偶然にも宿泊先がクアラルンプール郊外にあるとても高級な格式あるホテルで、生徒たちが部屋から部屋へ移動する行為もあまり似合わない雰囲気では驚きました。敷地が広く、目の前にゴルフ場があり自然に囲まれた場所でした。部屋を一步でるともう「公式の場」という感じでなかなか新鮮でした。食事は中華系統のものを食べる機会が多く、それ程あわないものはありませんでした。回線が入った鍋料理も美味しかったです。校了を使ったものや辛みがあるものがやはり特徴的ですよね。



またレストランでお米があるときなど、生徒たちは「お米」と聞いて喜ぶのですが、日本のお米とは少し違うものでしたね。

Q マレーシアの印象などお聞かせください

A 生徒たちは事前に、マレーの王族の歴史や文化、マレーが成立するまでを学んでいましたので、いかにしてこの国が今に至ったかある程度把握していたつもりです。ですから実際に行って見たことでより深く理解する事が出来たと思います。やはり経済立国のように無理やり作り上げた国とは違い、地に足をつけ、畑を耕し、そうして少しずつできた国なのだということを感じました。生命力のある、土の匂いがする国で、生徒にとっても私たちにとても刺激がある経験になりました。

平成20年度 群馬県立高崎北高等学校 修学旅行 行程表

日付	内容 / 行程		
1日目 10月11日	7:00	学校集合、点呼	
	7:30	学校発 空港へ	
	11:30	新東京国際空港着	
	13:00	搭乗開始	13:30 搭乗開始
	13:30	新東京国際空港発 JL-723便	14:05 新東京国際空港発 MH-71便
	19:40	新東京国際空港着 入国審査等	20:20 新東京国際空港着 入国審査等
	20:30	ホテルへ	21:10 ホテルへ
	21:40	ホテル着	22:00 ホテル着
	22:00	健康相談、点呼	
	23:10	消灯、就寝	
2日目 10月12日	6:30	起床	
	7:15	朝食(ホテル)	
	8:05	バスに集合、点呼	
	8:10	出発	
	8:45	クアラルンプール市内到着 市内観光	
	11:45	レストランへ	
	12:00	昼食(レストラン)	
	13:20	レストラン出発 ～班別選択活動～	
	14:00	一次集合	
	17:30	二次集合、レストランへ	
	18:20	夕食(レストラン)	
	19:20	ホテルへ	
	19:50	ホテル到着	
	21:00	健康相談	
22:00	点呼		
22:30	消灯、就寝		
3日目 10月13日	6:30	起床	
	7:15	朝食(ホテル)	
	8:15	バスに集合、点呼	
	8:20	出発	
	9:00	学校到着 ～学校訪問～	
	12:00	学校出発	
	12:30	昼食(レストラン)	
	13:20	レストラン出発 ～班別選択活動～	
	14:00	一次集合	
	17:30	二次集合、レストランへ	
	18:20	夕食(レストラン)	
	20:00	ホテルへ	
	20:30	ホテル到着	
	21:00	健康相談	
22:00	点呼		
22:30	消灯、就寝		
4日目	6:15	起床	

10月14日	7:15	朝食(ホテル)		
	8:25	集合、点呼		
	8:30	ホテル出発		
	9:15	～ブトラ・ジャヤ見学～		
	12:15	～クアラルンプール市内半日班別研修～		
	17:30	集合、出発		
	18:20	夕食(レストラン)		
	19:20	空港へ出発		
		クアラルンプール空港発		クアラルンプール空港発
		JL		MH
5日目	6:55	成田空港着	7:40	成田空港着
10月15日		入国審査等		入国審査等
	8:00	点呼、空港出発	8:40	点呼、空港出発
	12:00	学校到着	12:30	学校到着
		解散		